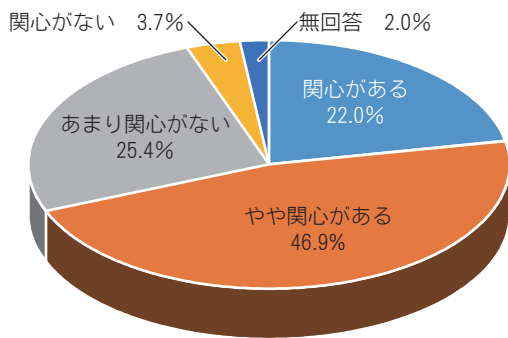


# 特集 「人権問題」 あなたなら どう考えますか？

## ～寄居町人権問題に関する町民意識調査結果から～

一人ひとりの人権が尊重され、誰もが心豊かに暮らせることは、「みんなのねがい」です。しかし、残念なことに、未だに偏見や誤った認識により、人権が侵害されることがあります。

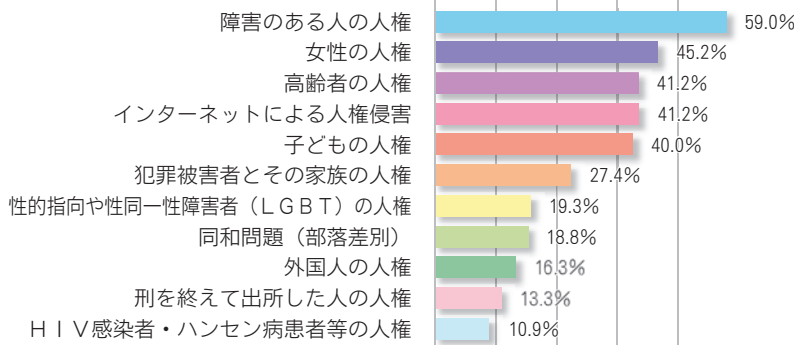
教育委員会・人権教育推進協議会では、人権問題に関する町民意識調査を4年に1度実施しています。町内在住の満20歳以上の方の中から、1,200人を無作為に抽出し、郵送にて回答していただきました。調査結果がまとまりましたので、その一部をお知らせします。



問：人権問題や差別問題に関心を持っていますか

「関心がある」と答えた方は22%でしたが、「やや関心がある」を合わせると68.9%に達します。前回調査より5.9ポイント高くなっています。年代別では20歳代から40歳代までは75%を超えています。「あまり関心がない」と「関心がない」と答えた人を合わせると29.1%になっています。多くの人が人権問題や差別問題に関心があります。

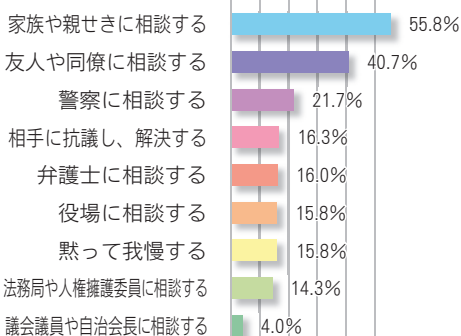
人権問題に関心が高くなっている



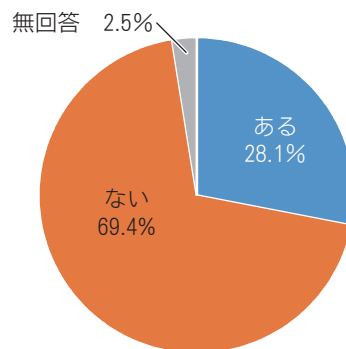
問：関心のある人権問題はなんですか

関心のある人権問題について質問すると、障害のある人の人権には59%の人が、女性や高齢者・インターネットによる人権侵害・子どもの人権では、40%以上の方が「関心がある」と答えています。

関心があるのは 障害のある人や女性の人権など



問：人権を侵害されたらどう対応しますか



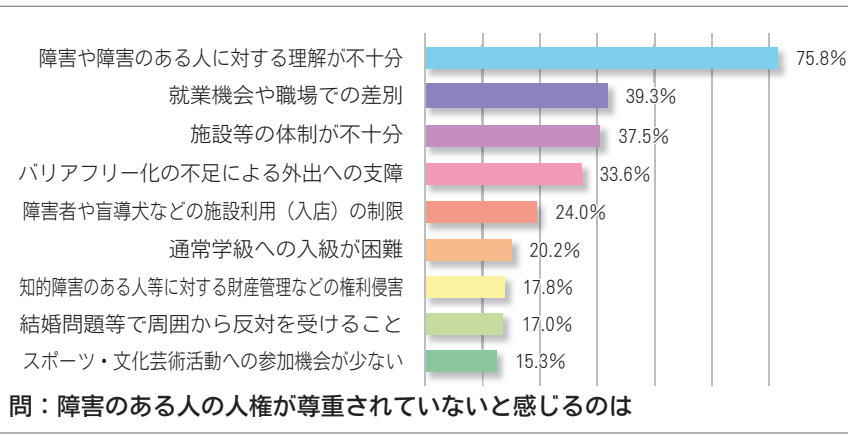
問：人権が侵害されたことは

これまで人権を侵害されたと感じたことがあるかという質問に、「ある」は28.1%でした。人権侵害された時の対応は家族や友人に相談する人が多いことがわかります。

四人に一人以上が人権を侵害されたと感じたことがある

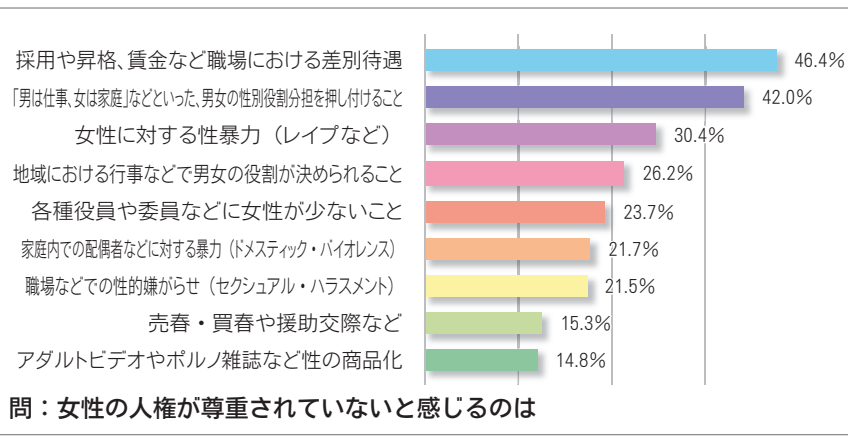
## 障害のある人への理解が不十分

障害のある人の人権が尊重されていないと感じるのは、「障害や障害のある人に対する理解が不十分」が75.8%でトップです。他には「就業機会や職場での差別」、「施設等の体制が不十分」、「バリアフリー化の不足による外出への支障」という回答が上位を占めています。



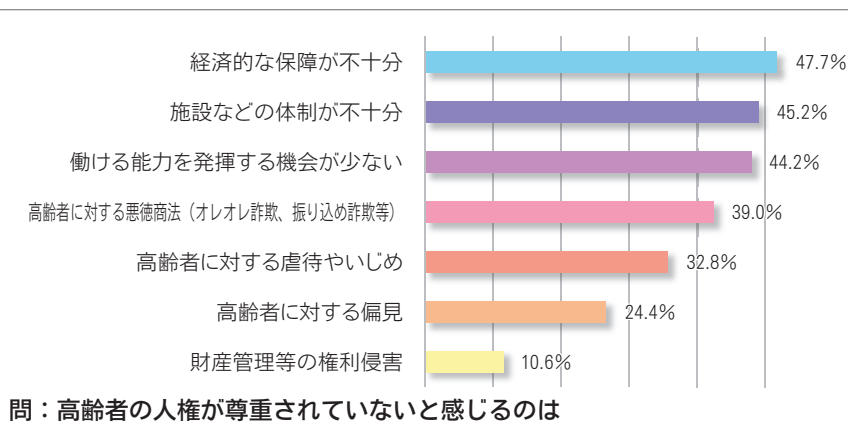
## 女性の人権では職場での待遇がトップ

女性の人権が尊重されていないと感じるのは、職場での待遇がトップで46.4%。次いで性別役割分担、性暴力などが多くなっています。性による差別や体力的に男性より劣る女性への暴力等が問題です。



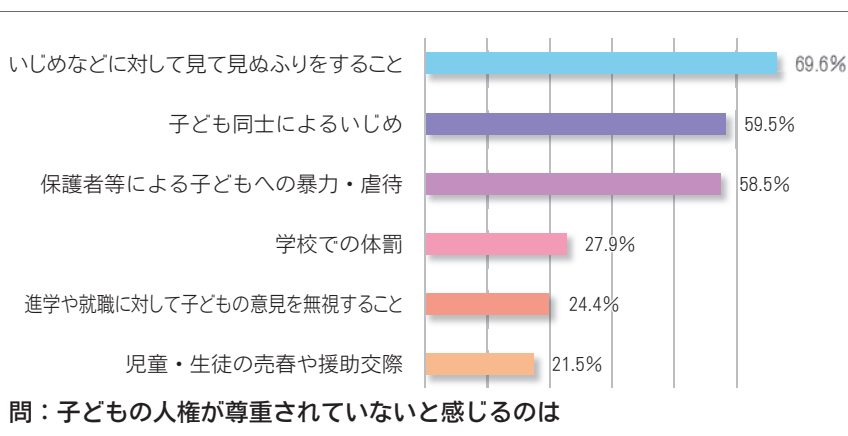
## 高齢者には経済的な保障が不十分

高齢者の人権が尊重されていないと感じるのは、「経済的な保障が不十分」が47.7%でトップです。その他に「施設などの体制が不十分」、「働ける機会が少ない」、また「高齢者に対する悪徳商法」という回答が上位を占めています。



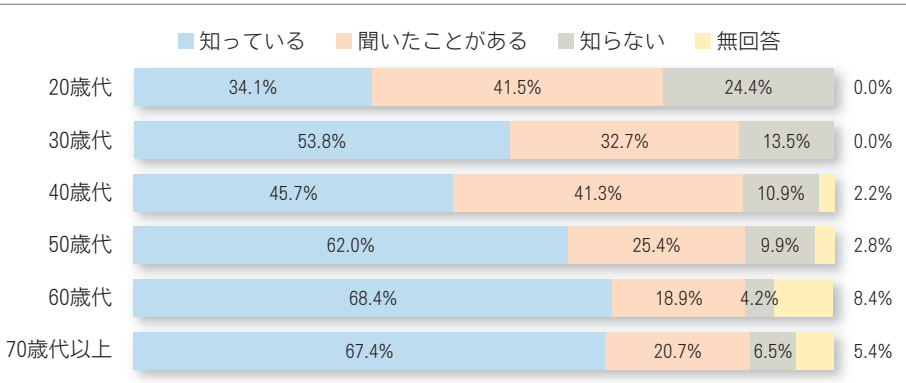
## 子どもへのいじめや虐待、体罰が問題

子どもの人権が尊重されていないと感じるのは、「いじめなどに対して見て見ぬふりをする」が69.6%でトップです。次いで、「子ども同士によるいじめ」や「保護者等による暴力・虐待」、「学校での体罰」が、回答の上位を占めています。



**同和問題（部落差別）の意識は…？  
若い年代ほど  
同和問題を知らない人が多い**

日本の社会の中に「同和問題」「部落差別」といわれる問題があることを知っていますかという質問に20歳代では24.4%が「知らない」と回答しています。

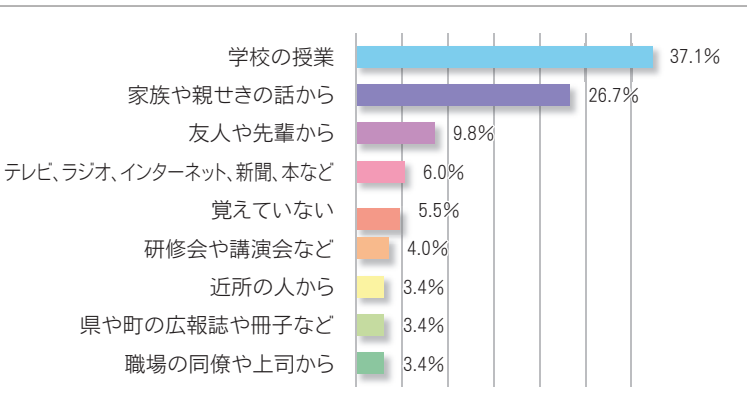


問：「同和問題」「部落差別」といわれる問題を知っていますか

**※ここからは、同和問題を「知っている」「聞いたことがある」と回答した人へ質問しています。**

**同和問題を知ったきっかけは学校の授業や家族・親せきの話からが多い**

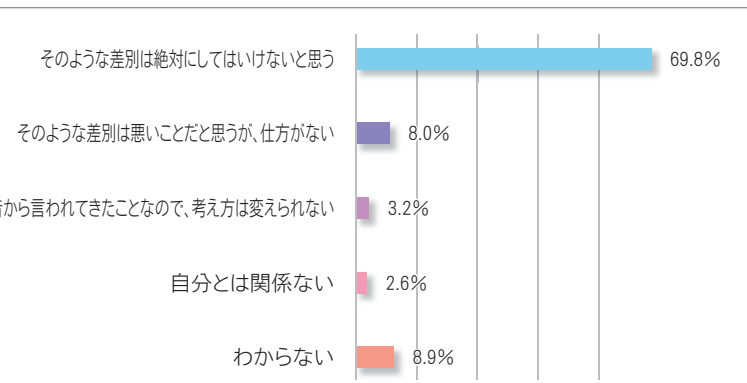
同和問題を知ったきっかけは、「学校の授業」が37.1%でトップです。年代別では、20歳代から50歳代までは「学校の授業」が50%以上ですが、60歳代からは「家族や親せきの話から」が30%以上でトップとなっています。



問：同和問題を知ったきっかけはだれ（なに）からですか

**部落差別は絶対してはいけないが約7割**

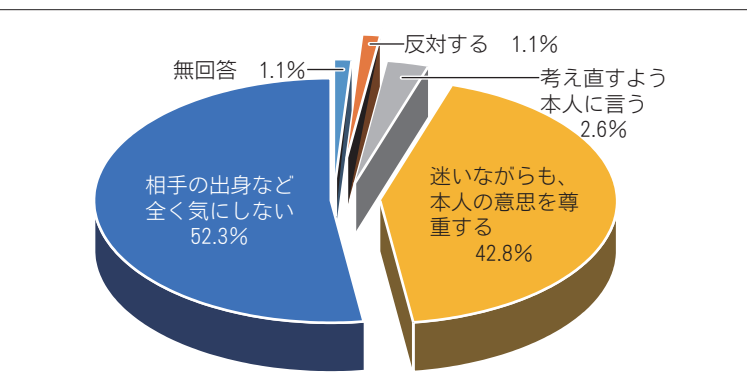
同和問題（部落差別）が今もなおあることについては、「そのような差別は絶対してはいけないと思う」が69.8%でトップでしたが、4年前の調査の75.6%と比較すると減少しています。また、「そのような差別は悪いことだと思うが、仕方がない」と「昔から言われてきたことなので、考え方は変えられない」と「自分とは関係ない」と「わからない」という結果でした。



問：同和問題（部落差別）が今もなおあることについてどう思いますか

**家族が結婚する相手が同和地区の出身だったらどう対応しますか？**

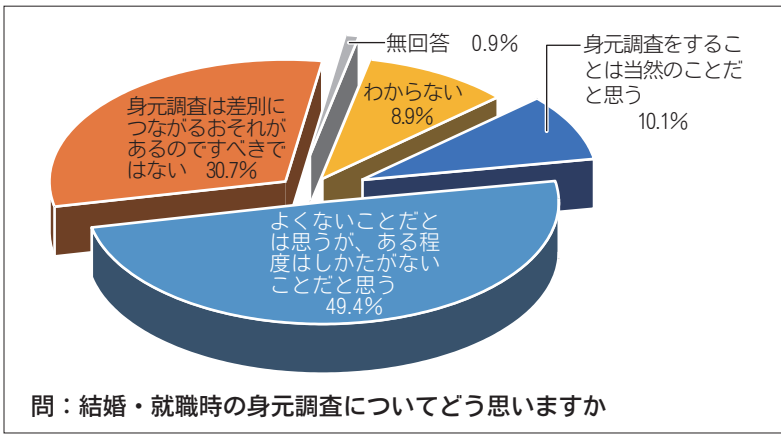
あなたの家族などが結婚しようとする相手が、同和地区の出身であるとわかったら、あなたはどんな対応をしますかという質問に52.3%の人が「相手の出身など全く気にしない」と回答しています。「迷いながらも、本人の意思を尊重する」を合わせると95.1%となります。また、考え直すように説得する人や反対する人も少数います。



問：家族などが結婚する相手が同和地区の出身だったらどうしますか

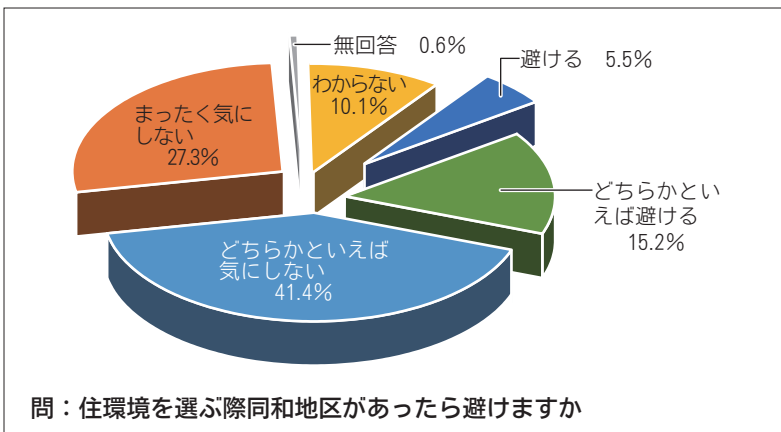
**結婚や就職時の身元調査について  
ある程度しかたがないが約半数**

身元調査について「差別につながるおそれがあるので、すべきでない」が30.7%であり、「よくないことだとは思いますが、ある程度はしかたがない」が49.4%と高く、「当然のことだ」と合わせる59.5%の人が身元調査に肯定的でした。年代別では、「すべきでない」は50歳代が40.3%で一番高く、20歳代が19.4%で一番低いという結果でした。



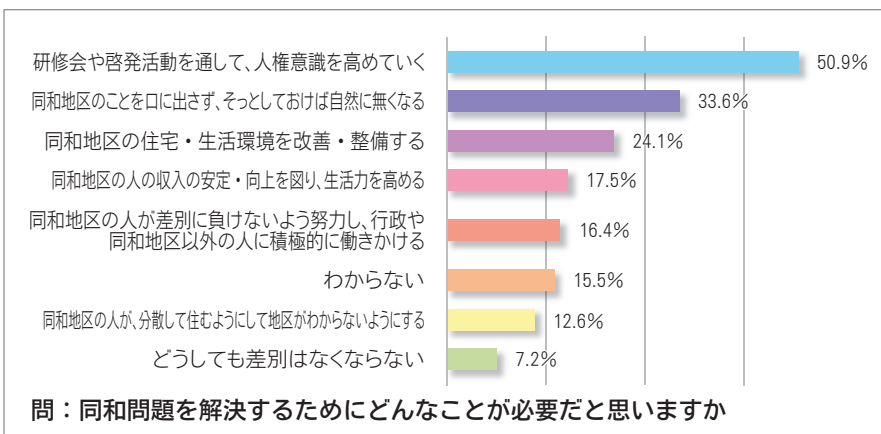
**住宅や生活環境を選ぶ際  
同和地区があったら避けませんか？**

「まったく気にしない」27.3%と「どちらかといえば気にしない」41.4%を合わせると68.7%を占めています。また、「どちらかといえば避ける」「避ける」を合わせると20.7%となります。4年前の調査と比べると「まったく気にしない」は6.8%増加していますが、「避ける」も1.6%増加しています。



**同和問題を解決するためには  
どのようなことが必要か？**

「研修会や啓発活動を通して、人権意識を高めていく」が50.9%と最も多く、次いで、「同和地区のことを口に出さず、そっとしておけば自然に無くなる」が33.6%でした。「どうしても差別はなくならない」という人も少数います。



**意識調査から見えた現状**

高齢者や障害のある人に対する詐欺事件や虐待など社会的に弱い立場にある人への人権の侵害は、一向に減少する様子が見られません。

女性に対する性的役割分担意識による不平等やドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメントなども、依然として大きく改善された様子は見られません。

子どものいじめや暴力・虐待などの人権侵害についての事件報道も後を絶たない状況です。

さらに情報化社会の急激な進展に伴い、匿名性の高いインターネットによる人権侵害情報の氾濫や掲示板等への差別書き込みも社会問題となっています。

同和問題では、解決に向けて進んではいるものの、「結婚相手と同和地区の出身の場合に反対する」「住宅や生活環境を選ぶ際、同和地区を避ける」などの差別意識は、依然として根深いものがあり、インターネット上に差別を助長するような情報が掲載されたことも大きな問題となっています。

**今後の取り組み**

町では、第6次寄居町総合振興計画・前期基本計画の中で「一人ひとりを尊重する地域づくり」を目指し、一人ひとりがお互いの権利を尊重し、性別・年齢・国籍・障害の有無などによるバリアを感じることなく、自分らしく社会に参画できる地域づくりを進めてまいります。